



なごや生物多様性保全活動協議会

会長 滝川 正子

### 猫ヶ洞池ゴミ拾い 2012／ゴミを一掃アシ原の再生を

現在、猫ヶ洞池（千種区平和公園）では、3月末までの予定で山崎川へ導水するための斜樋の改修工事を行なっており、池の水位が約1.5m下がっています。この機会に、長年堆積したゴミを市民の手で一掃し、今や消滅が心配されるアシ原再生に結びつけようと、日本野鳥の会愛知県支部・なごや東山の森づくりの会他からの協力要請がありました。そこで当協議会も参加団体となり、共に名古屋市へ働きかけ下記の通りゴミ拾いを実施することになりました。当日は、アシ原の生育場所一帯のゴミ拾いと並行してアシ原に入り込んだススキ、キショウブ等の刈取りも行います。

猫ヶ洞については、過去、1987年頃に日本野鳥の会愛知県支部の有志によるテグス拾いがおこなわれ、2008年8月にもゴミ拾いを参加者100名でおこないました。今回は寒い時期になりますが、アシ原再生を願う多くの市民と、まずはゴミを拾うことからはじめたいと思いますので、ご協力をお願いします。

猫ヶ洞池は、池の面積7.4haの名古屋市内では5番目に大きいため池です。魚類ではモツゴ、オイカワ、フナ類、コイ、カダヤシ、オオクチバス、ブルーギルと、水草ではアシ、ヒシ、マツモなどが確認されており、今年度池干しをする最有力ため池としています。それに伴い4月から次々と調査活動を実施していきます。

この斜樋の改修工事により、猫ヶ洞池から再び山崎川へ導水し、その余剰水を池北東のベルマウスから従来通り香流川へ放水をすることになります。この斜樋の改修工事に併せて山崎川へ導水期間と導水量についても新たに導水ルールの検討もされているとのことです。即ち、アシ原の生育に適した水の環境の維持も可能となると考えられます。よって、今回のゴミ拾いは、猫ヶ洞池のアシ原再生と下流の山崎川も含めてなごやの生物多様性保全活動へつながることを期待しています。

資料（木野さん作成）

ヨシ原に生息する主な野鳥（※は数の減少や絶滅が懸念されている種）

●繁殖場所として利用するもの

カイツブリ※

ヨシゴイ※

バン

オオヨシキリ※

オオジュリン（愛知県内では冬鳥）※

●採餌場所として利用するもの

クイナ

ウグイス

エナガ

シジュウカラ

●休息地および天敵等に襲われた際逃げ込む場所として利用するもの

越冬するガンカモ類

ゴイサギ

●非繁殖期の集団時の場所として利用するもの

ツバメ類

ツグミ

上記以外にも、カイツブリ、カワセミ等の餌となる、小魚、エビ、カニ等の生息場所、フナ、モロコ等様々な魚介類の産卵場所となるなど、直接の採餌場所としての利用以外でも餌の供給源として大きな役割を果たしている。